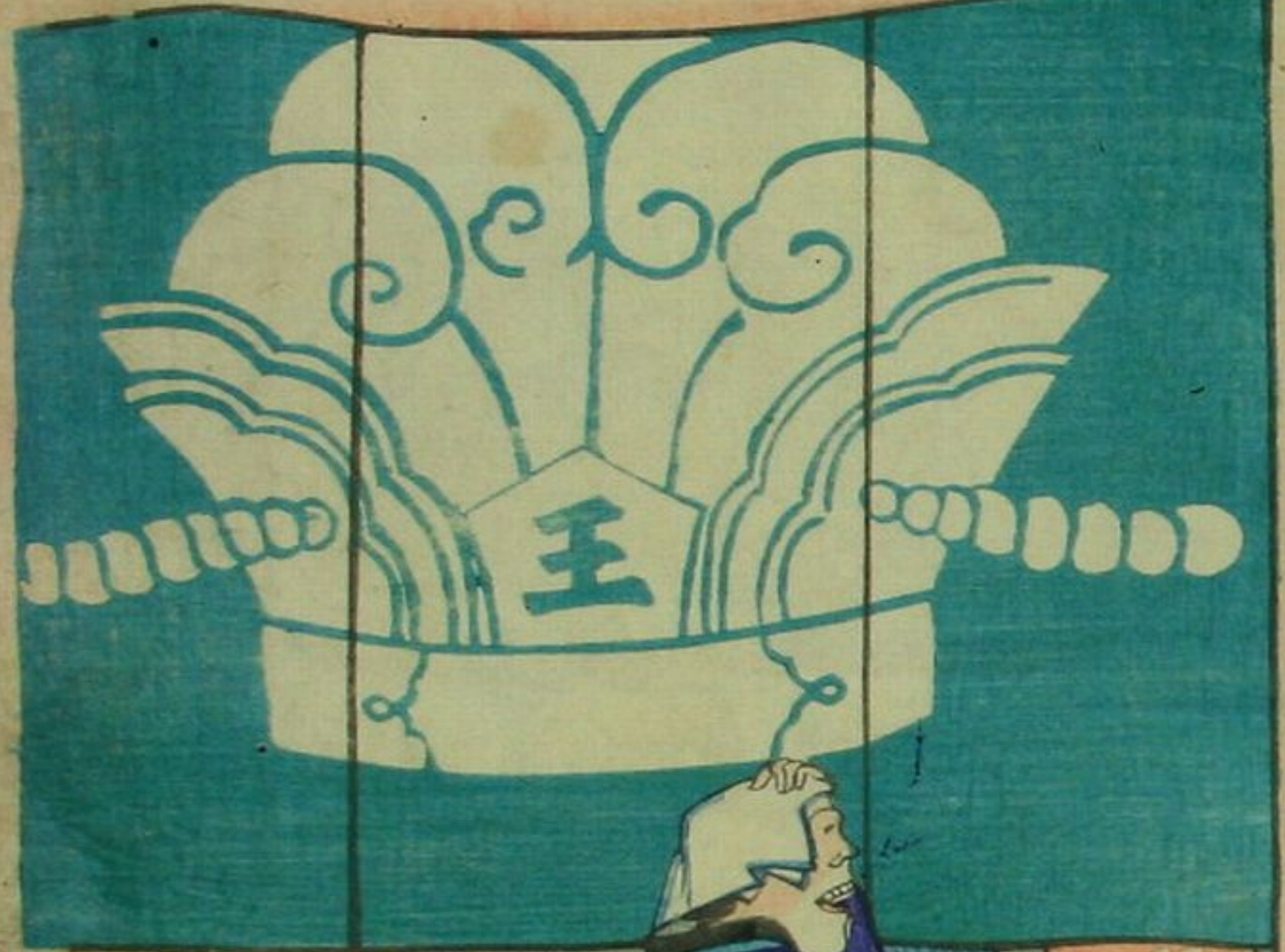
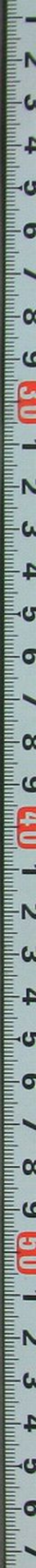


朝比奈地獄遊圖

贊曰
 地方の大門外極樂
 世界の脱道一廓の
 妓院有り。天堂の高き
 奈落の低き。白無垢と經子
 の衣裳ふ知らし。入山形の星位ハ
 三角の額紙に頼まり。三途川の
 脱衣婆。口入の看版。み客とひまハ
 視眼嗅鼻の穿鑿。連。晦日の月の
 浄土とせし。黒門の偏路。迷ひの
 妄者。法心とつへき。秋。まんと
 一時の真陀羅尼。一夜ふりし
 投をらら。實と尽と暇をられ
 虚を轉を間を。あやふゆに
 地王の大王。若とぬくの罰を用ひ
 方。鼻薬の樽代。抹香。し
 面とを笑。所謂地獄の沙汰も
 金次第とやいふらん
 清川の辺りをむ
 風雷の人述



朝比奈地獄遊圖



贊曰
 北方の大門外極樂
 世界の暇道ふ一廓の
 妓院あり。天堂の高き
 奈落の低き。白無垢と經子
 の衣裳ふ知らし。入山形の星位へ
 三角の額紙に願まり。三途川の
 脱衣婆。口入の看板み客とひまば
 視眼嗅鼻の穿鑿連。晦日の月の
 浄土とをく。黒門の偏路の迷ふ
 妄者が洗ひとつふべき哉。まへに
 一時の真陀羅尼。一夜ふり沙
 投をさる。實と尽と暇をまれ
 虚を轉を間を。あまふゆゑに
 地王の大王。舌とぬくの罰を用ひ
 た。鼻薬の樽代。抹香し
 面とを笑し。所謂地獄の沙汰も
 金次第と云ふまゝん

清川の辺りをむ
 風雷山人述

